

よこはま地球村

学生会館のマスコット
ラブアースベア



2021
No.107
春
spring

横浜市国際学生会館ニュース

横浜市国際学生会館は、留学生等への宿泊施設の提供と市民の国際理解を目的として横浜市が開設し、公益財団法人横浜市国際交流協会が指定管理者として管理・運営しています。

地域の防災訓練に参加しました!

2020年11月8日(日)、国際学生会館から歩いて7分ぐらいのところにある汐入小学校で開催された地域防災拠点開設・運営訓練に、留学生と会館スタッフが参加しました。

当日は、小学校の体育館で地域の人たちと顔合わせをした後、潮田西部地区自治連合会会長さんの案内で学校敷地内を見学しました。防災倉庫内にあるものの使い方を確認したり、緊急時に簡易トイレを設置する場所を見たり、小学校が緊急時にどのような役割をするのか、その一端を実際に見ることができました。

その後、体育館で簡易ベッドを作る体験をしました。いくつかの段ボールをつなげると、大人が乗っても大丈夫なしっかりしたベッドができあがりました。「地震などが起こったら、ここに来れば私にも何か手伝えることがありますか」と質問する留学生もいて、支援してもらっただけでなく、自分も地域防災の担い手でありたいという意欲を感じました。「日本の防災訓練に初めて参加したが、とても興味深い内容だった」「自分の子どもが日本に来たらこの学校に

通うことになるので、見られてよかった」「またこのようなイベントがあれば参加したい!」と言っていました。

コロナ禍ではありますが、今後も地域の皆さんといっしょに、さまざまな防災訓練や地域行事に参加していきたいと思っています。



母語で歌おう! 色々な民族がいる台湾



ファン リンさん

知っていますか?台湾では法律で定められている公用語がありません。台湾華語、台湾語、客家語、台湾手話、台湾各原住民族の言語、すべてが国家言語です。30種類以上あります。日常生活はたいてい台湾華語を使っています。

音楽を作る時も台湾華語で歌う曲が多いです。しかし、母語で音楽を作る歌手、バンドが増加しています。これから少し紹介します。

ロックバンド「拍謝少年」(Sorry Youth)は、十数年間ずっと台湾語でロック音楽を作っています。フォーク歌手、林生祥(リン・センシャン)は客家語で歌っています。以前、「交工楽隊」というバンドをやっていました。そのバンドが解散

した後、彼はソロで活動を続けて、現在は「生祥楽団」というバンドをやっています。最後は歌手Alienljeng Tjaluvie (Abao / アバオ)。パイワン族のアバオはほとんど失われていたパイワン族の古い調べと電子音楽、R&B、ソウルなどを融合させて、「kinakaian (マザータング)」という、すべてパイワン語で歌うアルバムを発表しました。

いい音楽なら、その言語がわからなくても心に沁みます。(東京藝術大学 ファン リン)



アルバム「kinakaian(マザータング)」のジャケット

館長の「コミュニケーションコラム」

5年間にわたる学生会館の館長の務めを、令和3年(2021年)3月をもって無事終えることとなりました。これまでに世話になった地元や関係団体の多くの方々に心より御礼申し上げます。この間支えてくれた家族にも感謝したいと思います。

振り返れば平成28年(2016年)4月、初めて経験する留学生支援の仕事に不安を抱きながら潮田交流プラザの門をくぐりました。それまで大世帯の賑やかな職場で働いてきた私には、当初、小さく静かな学生会館の事務室に寂しさを抱いた思いがよみがえります。しかし、心優しいスタッフに囲まれ、皆で和気あいあいと仕事に励み、カイゼンへと進めてきました。また、学生会館に住む国際色豊かな留学生とイベントを行ったり、相談に乗ったりと若者のエネルギーを感じながら過ごすことができました。

そして、会議の席上で旧知の方と再会したり、昔共に仕事をした仲間に出会ったりし多くの方々に支えていただけてきました。気づくとあちこちに新たな知り合いと仲間ができ、学生会館を中心にその輪が大きく広がったように感じます。こうして私自身がこれまで培った仕事を活かし、多くの方や留学生と心触れ合

うことができ、他人様のお役に立っていることが実感できました。

仕事を通じて自身が成長できたかと問われれば、私自身はわからないと答えます。答えは周りを見渡した時、スタッフが楽しそうに仕事する姿や気軽に相談できる雰囲気づくり、また新たなアイデアを生み出したり、ミスに気づき自ら直すことができること、そして学生会館での生活を通じて、生き生きと勉学に勤しみ自分の夢を叶える努力や社会に貢献しようとする留学生の姿に、鏡に映した私の成長を感じ取ることができます。

最後の一年間は新型コロナウイルスの感染予防対策に邁進しましたが、これにより地球規模での協調や融和の必要性を誰もが痛感したと思います。今後迫りくる環境破壊や地球温暖化の課題を共に考え、世界平和への道のりを一人一人が歩んで行かれますよう、祈りながら筆を置かせて頂きます。本当に有難うございました。



長年連れ添った妻と

学生会館からのお知らせ 参加者募集!

申込は<045-507-0318>まで
詳細は学生会館HP<<http://yoke.or.jp/yish/>>をご覧ください。

◆オンライン グループ英会話 <5~7月>

中級と上級を募集します。3-4人のグループに分かれ、留学生が1人つきます。

日時 ●土曜コース 5/8・22, 6/5・19, 7/3
《土曜午前クラス》10:00-11:00
《土曜午後クラス》14:00-15:00
火曜コース 5/18, 6/15, 7/13
《火曜午後クラス》14:00-15:00
《火曜夜クラス》19:00-20:00

参加費 ●土曜コース3,200円(5回分)
火曜コース2,000円(3回分)

申込み ●4/11(日)~4/19(月) *Eメールのみ

◆オンライン プライベート会話サロン <開講中>

留学生と1対1で会話を楽しみます。
開講日程等は、国際学生会館ホームページで確認してください。



交通案内 JR京浜東北線・京浜急行線「鶴見駅」より徒歩15分
JR鶴見駅東口より横浜市営バス15系統(4番乗場)に乗車5分、本町通3丁目にて下車、徒歩1分

開館時間 火曜日~土曜日 9:00~21:00
日曜日、月曜日、祝日 9:00~17:00
休館日 毎月第4月曜日、年末年始

発行: 横浜市国際学生会館
〒230-0048 横浜市鶴見区本町通4-171-23
Tel.045-507-0121 Fax.045-507-2441
ホームページ: <http://yoke.or.jp/yish/>
印刷/デザイン: ツルミ印刷株式会社

横浜市国際学生会館ニュース

よこはま地球村

2021年 春号

2021年3月1日発行 第107号

OB わくわくインタビュー

激動の2020年を語る

2018年9月、交換留学生としてフランスから横浜市立大学に来たアレックス(アレックス) ジャナンさんとノラン テレーズさん。学生会館に入居していた1年間に、フランス語サロンやフランス文化講座、小中学校への出前授業など、学生会館が主催するさまざまな事業に協力してくれました。日本で働きたいと就職活動にも力を入れた二人ですが、内定を得た後で新型コロナウイルスのパンデミックに巻き込まれ、波乱の1年を送ることに。

そして2020年12月。揃って学生会館に顔を出してくれた二人に、激動の一年を振り返ってもらいました。

—日本での就活はどうでしたか？

ノラン 大変でした。最初は自動車業界を狙っていましたが、最終的にゲーム業界に内定し、2019年9月に一旦フランスに戻ってリヨン第三大学日本文化学部日本語学科を卒業しました。同じ学科のアレックスとは留学前から顔見知りでしたが、日本にいた一年間で親友になりました。

アレックス 僕は就職先がなかなか決まらず苦労しました。最後に残った1社から内定をもらったときは本当に嬉しかった！しかも社名がフランス語だったので、「ここしかない！」と思いました。

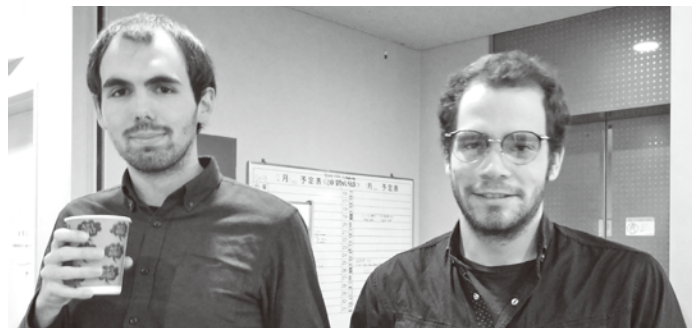
—入社までの期間をどのように過ごしましたか？

ノラン 入社すると安定した日常がずっと続くと考えたら、本当にそれでいいのかと迷いが生まれました。もう少し冒険したくて、2019年12月に再来日。ピースボートのクルーズスタッフに応募したところ、高倍率の選考をパスすることができました。そこで意を決して、2020年4月の入社を1年延ばしてもらえないかと内定先に頼んだのですが、それはできないと。逆に、3月初めまでにははっきりさせるよう言われ、大いに悩んだ末に冒険を選ぶことにしました。ところが、なんと内定辞退の回答期限の前日にピースボートから、「新型コロナウイルス感染拡大のため出航を中止する」との連絡が来たのです！危うく職を失うところでした。

アレックス 2019年11月20日にフランスに戻り、しばらくの間は、留学前からバイトしていたラーメン屋や友人のアパートに寝泊まりしていました。フランスではアパートを借りる場合、最低1年住むことが条件なので、4か月後に日本へ行く予定だった僕は借りられなかったからです。2020年3月18日に日本の就労ビザが発給されましたが、その前日にフランスで1回目の外出禁止令が出て渡航できなくなってしまいました。落ち込みましたが、プザンソン郊外にある高校時代の友人宅に移り、庭で家具を作ったりして気分を紛らわしました。僕はリヨンでも日本でもラーメン店でバイトをしていたほど、日本のラーメンが好きです。自分の製麺機で麺を手作りし、2~5時間かけて取ったスープを、アジアスーパーで調達した日本の調味料で仕上げ食べていました。これが最高の気分転換になりました。

—2020年4月以降は、どんな生活でしたか？

アレックス 実家に帰りました。日本へ行くとまたしばらくお母さんに会えなくなるので、それまではいっしょに過ごしたほうが良いと思ったからです。10月28日から2回目のロックダウンが



向かって左がノランさん、右がアレックスさん

始まりましたが、1回目と比べると制限が緩く昼間は外出することができました。飛行機に乗る3日前にPCR検査を受けて陰性証明をもらい、日本を発ってからちょうど1年後の2020年11月20日に日本に戻って来ました。2週間の自主隔離期間を過ごすためのアパートを、会社が都内に用意してくれました。また、勤務地の新潟で外国人の僕が苦勞せずに生活を始められるよう、社員寮の部屋に特別に家具や寝具を揃えてくれました。大事にしてもらえてありがたいです。

ノラン 4月1日に200人の新入社員がみなとみらいに集まり、入社式がありました。外見から外国人とわかるのは、僕の他に1人だけでした。研修期間が終わるとマーケティング本部グローバルマーケティング部に配属されました。社外に持ち出せない機密事項が多いので在宅勤務はできません。緊急事態宣言下でも社員が半数ずつ交代で出勤するなど工夫しています。僕がこの会社に採用されたのはフランス語ができるからだと思います。ゲームはグローバルな業界ですが、僕の会社のゲームはフランスに向いています。とくに漫画系のゲームは今後フランスで人気が出ると思います。

—今後の目標は？

ノラン 広報戦略を決めて本社に提案するのがグローバルマーケティング部の仕事です。グローバルに展開するためには海外のゲームショーで宣伝するのが一番効果的なので、いずれは僕も海外出張が増えると思います。

アレックス 最初は新潟の本社で国内営業の現場を経験することになりますが、数年後には国際営業部のある東京へ移ると思います。でも本当のことを言うと、フランスでラーメン屋を開くのが長年の夢です。僕のラーメン愛は本物ですよ！

日本語が堪能で日本文化にも慣れ親しんでいる二人。コロナ禍の中でも持ち前の明るさで、社内に新しい風を吹き込んでくれることでしょう。それぞれの場所で思う存分活躍してほしいと思います。

留学生によるコラム かけはし

「COVID-19の私の留学生活への影響」

情報セキュリティ大学院大学
ダン デュイ タン(ベトナム)

私はベトナムから来て横浜で学んでいる博士課程3年の学生です。予定では2020年の4月に博士課程を修了して帰国するはずでした。でもCOVID-19が発生し、私の計画は台無しになりました。

COVID-19の渦中にある留学生活は、非常にストレスのかかるものであることは明らかです。授業がオンラインになって研究活動は滞り、試験がどのように行われるのかもわかりません。活気溢れる国際的な環境にある大学内でウイルスの拡散を防ぐため、私の大学ではほとんどの学科が施設を完全に封鎖しました。しかし授業は進めなければなりません。私の大学は速やかにオンライン授業に移行し、チューターや学生はその変化にがんばって適応しなければなりませんでした。結果的に目覚ましい成功を収めました。オンライン授業への移行は講義やセミナーに影響しただけではありません。大学図書館はオンラインによる補習授業に力を注ぎました。言うまでもなくオンライン学習は試験にも大きく影響し、大学は施設内で実施する試験に代わる方法を整えるため尽力しました。これにより、学生のパフォーマンスを損ねることなく公平に評価する、幾通りかの異なる評価方法をいかにして保証するか、という多くの課題が出てきました。私の大学は、質と公平性を損なうことなくできる限り速やかに、こうした変化を受け入れる努力をしました。私のような博士号の志願者に対しては博士論文審査会に限られた出席者のもとで行われま

した。卒業式も前例のない方法で行われました。卒業式は例年、横浜の中心にある豪華なホテルで開催され、全ての教授が参加するこの大切な会席に、卒業生は家族連れで参加してきました。ですが今年の卒業式は大学の教室で、家族は立ち会わずに卒業生だけで行われました。しかも感染防止のため式典は短時間で終了しました。

COVID-19の影響でベトナムへの航空便が止まっているので、私は卒業後も横浜市国際学生会館(YISH)での滞在期間を延長しなければなりません。COVID-19の最中にYISHに住むことができたのは幸運です。YISHのスタッフは全ての学生に対してとても親切で、支えてくれます。そして学生の状況を気遣い面倒をみてくれます。私はYISHを通じてボランティアの方々からマスク、米、その他たくさんの頂き物をしました。それらのおかげで生活費を節約することができました。

私はこの状況を、自分が成長するための機会、すなわち柔軟になれるチャンス、未知のものを進んで受け入れるチャンス、誇りを持って謙虚になれる時、そして自分に与えられた驚くような経験だと捉えて理解しようと、最大限の努力をしています。ひどく憂鬱になり、世界が終わってしまうのではないかという気持ちになることがありますが、そんなことはないと思っています。一方で私の精神はいつもしっかりしていて、だからこそこのパンデミックに必ず打ち勝つことができると、本当にそう思えるのです。この非常に困難な時に私を助け支えてくれるすべてのYISHスタッフに感謝いたします。

*「留学生レポート2020」(国際学生会館発行)より

OBOG だより

李宣さん(中国)
(2010-2012年
入居者)



中国の学会で発表する李宣さん

国際学生会館(YISH)での一番の思い出は、みんなで祭礼に参加したこと。また、3Fホールで卓球したこと、共用キッチンで料理を作ったこと、13Fの図書室でかんぽって論文を作成したこと、とてもいい思い出です。

2013年に横浜国大で博士号を取得しました。その後、横浜国大の成長戦略センターに研究員として在籍したまま中国に戻りました。大連大学で日本語の語学教員として教鞭をとりながら、東北财经大学でポスドクとして社会保障の研究・論考を続けました。ポスドク終了後、瀋陽師範大学の管理学院に転職しました。社会保障論、国際社会福祉、社会扶助制度、企業年金、高齢者介護実践などの科目を担当しました。

2020年に客員研究員として来日し、横浜国大で児童医療を中心に研究を続けています。12月には日本女子大学で、中国の福祉制度について講義しました。横浜国大では授業とゼミに参加していて、YISHに住んでいる3人の女子学生にも教えたり、一緒に勉強したりしています。みんな元気いっぱい、いろいろなことに興味をもっている優秀な学生たちです。

留学生活には苦勞もありますが、勉強したいときにしっかり勉強して、勉強したくないときはYISHの友だちと楽しく遊んで気分転換をしてほしいと思います。



潮田神社祭礼でお神輿を担いだのが、一番の思い出です